



〔会議の経過〕

1 開会

(事務局)

ただいまから令和5年度第4回加東市部活動あり方検討委員会を開会いたします。  
以後の進行を委員長にお願いします。

(委員長)〔挨拶〕

前回提示された全体のスケジュール案、アンケートについての確認が主になります。  
事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料①：前回会議録

資料②：スケジュール詳細版

【予定】3月 教職員説明、アンケート実施

4月 アンケート集約、総体後の実証事業対象部活動調整

令和7年度以降 地域展開拡充

資料③：活動パターン例

参考②：保護者配布文書

(委員長)

実証事業する場合には、おそらく現状の活動が続いていきつつ、新たな部分が展開していくことになると思いますが、確認しておきたいことがありますか。

(委員)

実証事業になった部活は、今までの部活と、どのように変わるのか教えていただきたいです。

(事務局)

イメージとしては、今回、土日の部活動の地域展開ということでスタートしようということですので、土日に教員がかかわらない形、地域人材とか、現在の部活動指導員等に指導をおまかせするというようなイメージです。

(委員)

その部活動に関わりたいという教師がいれば、どうなりますか。

(事務局)

来年度の実証事業については、いろんな制度等がまだ整っていない部分がありますので、実証事業期間は、学校管理下、今の部活動と同じような扱いとなります。例えば、けがをしたときにはスポーツ振興センターの対象になります。

今後、地域展開した際は、先生方の中で指導したい方については、兼職兼業という形になります。

指導員と学校の先生とが一緒になって子どもたちを指導するという形も1つのパターンとして考えていますので、先生方でやりたいという方がおられれば、もちろん指導することは可能です。

(委員長)

土日に先生は関わらない、活動指導員が中心に見るという形にしたとしても、先生としては、平日も関わっているから様子を見に行ったりということが、事例として発生しています。

そういう意味では、責任の部分も含めて、どのクラブでお世話になるというのは、いろいろ考えたほうが良いと思います。そして、私は、この実証のときは、もし先生が関

わるとすれば、さっきの兼職兼業を実証事業として認めることにしたらどうかと思います。自分の学校の子を見るなら今の活動と変わらなくなります。

実証事業としては成り立たないので、もし先生がこの実証事業の形でやられるとすれば、パターン①とかですかね。

④みたいな形の、いわゆる部活動とは違う形の関わりを実証事業としたり、将来的には、すべての先生が、希望されたら兼職兼業の制度もちゃんと整えなければいけません。が、特例的に教育委員会として位置付けている場合があったりします。

(委員)

書類とか大会の申し込みとかも、地域指導者が行うことになりますか。

(委員長)

そこが、どこも悩ましいところですが、逆に中体連という組織の中で参加する場合は、もう基本的にはこの実証事業レベルでは、やはり学校単位の活動になるので、学校の先生が中心になるのではないかと思いますね。

(委員)

クラブ活動の試合等は、やはり土日が多いと思うんですね。

そうなると、学校側にそれを依頼するなら重複するようなどころがあると思うので、中体連の方でもルール改正はできるのかどうか。

中体連の部分の縛りがあつたら、地域が動いても、そういう縛りには沿っていかないといけないんだつたら、無理だと思います。全国でもそういうことが問題だというのは聞きました。

(委員長)

そういう意味では、1回こういうふうに、いくつかの部でやっていく中で、子どもが戸惑うこと、保護者が戸惑うこと、先生方が戸惑うこと、地域の人材の方が戸惑うこと、どんな課題が出てくるのかというところを、部分的に検討する話かと思います。

あくまでも、学校管理下で、部分的に行うというところなので、きれいに分かれているわけではないですね。

そういう意味で、この実証事業、総体が終わってから土日もずっとやっていくのか、週あるいは月に何回かだけにするのか、その辺りを考える必要があるかだと思います。

これも地域人材の方のご都合とか、もろもろの事情があると思うので、総合的に判断を教育委員会の方でしていただく必要があるかだと思います。

(委員)

地域人材として、部活動指導員と外部指導者はどういう違いでしょうか。

(事務局)

部活動指導員は、顧問と同じような扱いです。例えば、練習試合の引率や指導といった、単独で顧問がいない状態でもできるというのが、部活動指導員です。

外部指導者は、顧問がいる状態で技術面の向上に向けて指導するという違いがあります。

(委員)

ちなみに今、加東市では部活動指導員は何人ぐらいいらっしゃいますか。

(事務局)

現在12名配置しています。

(委員)

実証事業という形ではありますが、学校管理下で実施するという前提であれば、部活動ガイドラインに沿った扱いというところえ方でよいですか。土日両方ではなくて、いず

れかの活動ということで。

(事務局)

結構です。

(委員)

子どものためにやっていく先生ばかりだと思いますが、やはり先生のなり手が少なくなってきたこの時代に、若手の先生も含めて、いよいよ掘り起こしていかないといけないのではないかと思います。

子どもたちを、見てるだけ、ほったらかしということは絶対やってはいけない。

もちろん、先生方と、土日こういうカリキュラムでいこうというようにお互い共通の気持ちでやっていかないといけないと思います。

(委員長)

今まで当たり前慣れ親しんできたやり方から変わる際に、いろんな情報を得る中で多くの不安があると思います。

一方で、継続してその活動に関わりたいと思う人をできるだけ掘り起こして、そのまま継続してもらえるようにすることが大切です。

また、新しい関わり方の中で、熱心な先生、熱心でない先生というラベリングをされないようにすることが大切です。

地域の方を含めて、説明を丁寧にしていく必要があると思います。

(委員)

今後の課題にはなるとはありますが、平日と土曜日・日曜日の部活動を、別々の指導者がするという事は、やはり子どもたちは、戸惑いがあるのではないかと思います。

だから、先生方と地域指導者が連携をとって、どういうふうな教え方をしましょうとか、私はこう言いましたよとか、連携が取れる体制でないと、曜日を分けての指導というのは難しいと思います。

(委員長)

おっしゃる通りで、このあたりの課題は、もう他地区でも出ているところですね。一方では、違う視点でアドバイスしてくれてよかったという意見も一定数あります。

連携とかあるいは情報共有という作業が大切なので、どの学校で実施するかとか、地域の実情を踏まえて考えたらいいと思います。

パターン④を具体的にしていく場合には、ちょっと課題があるかもしれないとは思いますが。

今の部活動にない種目を、5年生とか6年生を対象に、スポット的にやるというのは、ある意味良いかもしれません。

もう1点、アンケートの方を検討したいと思います。

(事務局)

資料④：アンケート案

関係団体、児童生徒(小5～中2)、保護者、教職員

(委員長)

それぞれの視点からご意見いただけますか。時間を設けますので、委員同士で少しお話してください。

[ 意見交換 ]

(委員)

アンケートを取る対象は、ここにいる団体以外もありますか。

(事務局)

幅広くと考えています。

例えば、年度当初に、ご説明に伺った総会等にご参加いただいている団体さんはもちろんですが、それ以外で協力いただける方ももちろんおられると思いますので、その辺を把握していく方法についてお知恵をいただけたらと思います。

できる限りお伺いして説明をして、アンケートに答えていただくお願いもあわせてと考えています。

例えば、お集まりになられる機会とかが、近い日程であれば、そこにお邪魔してご説明ということも1つの方法だと思いますし、こられていない所属の団体がおられたら、お邪魔して、お話をさせていただくということも考えています。

(委員長)

できるだけ行政で把握しているところには答えてもらうようにしていただけたらと。

(委員)

スポーツクラブ21ですと、勝つことではなしに、スポーツを楽しむというのであれば、一緒に参加できるという形で回答できると思います。

親子で参加したり、おばあちゃんと孫と一緒に卓球したり、中学校の部活とはちょっと違いますがそういうことができます。

そういう意味で、スポーツクラブ21はいくつかのサークルがあるので、それぞれに行き渡るようにも配慮をお願いできたらと思います。

(委員)

ケーブルテレビを活用して状況を伝えるのも良いかと思います。

情報に敏感な団体もあろうかと思いますが、指導者だけではなく、関係団体プラス保護者にも言っていったほうが良いと思います。

(委員)

アンケートの内容で、指導者への謝金は支払われるのかという項目がありますが、個人ではなく団体への謝金の方がいいのではないのでしょうか。

あと、保護者の項目で、期待することばかりではなく、不安を聞けば、その不安に対しての問題点をつぶせるような話し合いもできるのではないかと思います。

(委員)

教職員への質問で、例えば、種目によっては指導しても良いという項目や自分の働いている勤務校だったら指導してもいいとか、もう少し幅を持たせていただけるとわかりやすいのかなと思いました。

(委員)

児童用と生徒用ですが、これからやってみたいというのは部活動としてだと思いのので、部活動として書いたほうがわかりやすいと思います。

(委員)

まず、児童用ですが、5・6年生はクラブ活動と部活動の違いがわかりません。

部活動がどんなものを説明した上で、そこでどんなことをするのかとか、何があるのとかというのを選べる形式だと良いと思います。

それから、7・8年生ですが、このアンケートを見て不安になる子どももいるのではないのでしょうか。

自分が2年間活動した部活動が、今変わってしまう、なくなってしまう、仲間と一緒に土日できなくなると、不安を感じると思います。どのように伝えるかによって変わってくると思います。

初年度は、特に伝え方は慎重にしないといけないと思います。

あと、文化的な部活に関しては、引退の時期がまちまちなので、文化的なところのタイミングは、いつがいいのか迷うところです。

(委員)

導入をしっかりとした上でアンケートとると、そうでないのでは、全然結果が変わってくると思います。アンケートとられて、それをどう生かしていくのかも難しいと思います。

(委員)

小中一貫校なら、5・6年生でクラブ活動の見学に行きましょうとか、目の前で見て体験することができますよね。

(委員長)

やはり、子どもにわかる範囲の表現で丁寧に説明をする必要があると思います。

また、教職員用アンケートで、例えばですけど、条件も人によって違うので、学校の先生の肩書きを抜いた、純粋な文化スポーツ活動を伝える人として「地域指導者」と表現されています。

加東市の資源として、先生方に期待するとしたら、どれぐらいの種目があるかが、ざっくりとでもイメージできていくと、今後の展開に少し役立てると思います。

続いて、3つ目ですが、その他事項で事務局から説明です。

(事務局)

令和6年度の委員就任についてですが、部活動あり方検討委員会の設置要綱第4条に、委員の任期は委嘱の日から3年とするとしています。

今年度協議にご参加いただいて、部活動の地域展開についてご理解を深めていただいた皆様に、引き続き来年度もお務めいただいて、地域展開の実施に向けて具体的に進めていきたいという思いです。

閉会にあたりまして副委員長からご挨拶いただきます。

(副委員長)〔閉会挨拶〕

(事務局)

以上を持ちまして、第4回加東市部活動あり方検討委員会を終了します。

令和6年4月16日